



### 人間だから出来ること

大隅教育事務所 総務課長 松村賢志

ある日、テレビを見ていると、今は友達よりも、AI(人工知能)に悩み事などを相談する子供や若者が増えていくとのことであった。友達は、話を聞いてくれるが、答えを返してくれないことが挙げられていた。一方で、AIは答えをくれるし、優しい言葉や労いの言葉もかけてくれるとも語っていた。専門家も「AIは沢山の情報の中から、確率の高い答えを返してくれる。」とコメントしていた。私は驚くと同時に、少し心配になった。それは、子供たちが学校の先生や家族に悩み事などを、全く相談しない時代が本当に訪れるのではないかと思ったからである。しかし、人間には出来て、AIには絶対に出来ないこともあるなとすぐに思った。それは、AIは「祈りの言葉を発すること」は出来ても、「祈ること」は出来ないということである。相手を心から大切に思うことであったり、相手の幸せのために言葉に願いを込めたりするという事などは、人間にしか出来ないことである。

私には、人がもつ温かさに触れた、忘れられないエピソードがある。私が、小学校4年生の時のこと、担任の先生に呼び出されて、放課後の教室に向かった。呼ばれた理由は、私が納めるべきお金を、何日も納めていないことだろうと予測がついていた。私は、叱られる覚悟で教室に入った。案の定、用件はそのことであったが、私が納められていない理由を話し始めると、先生は黙って頷きながら、私の心に寄り添うように耳を傾けてくださった。そして、先生は最後に「分かった。気を付けて帰るように。」とだけ私におっしゃって、笑顔で教室を送り出してくれた。私は、先生の優しさや思いやりの気持ちを心の底から感じ、目に涙をにじませながら帰宅したことを覚えている。時を重ね、人は人と接することでしか、得ることのできない大事なものがあるのだと確信している。先生から教えていただいた『人間だから出来ること』を伝え、広げていける人になれたらと考えている。

### 「学習者主体の授業」実現プロジェクト

「学習者主体の授業」実現プロジェクトは、2年目を迎え、大隅地区では、鹿屋市立鹿屋東中学校区（モデル校区）を中心に、以下の五つの中学校区で小、中学校が連携を図りながら取り組んでいます。

【モデル校区】 鹿屋市立鹿屋東中学校区

【実践校区】 垂水市立垂水中央中学校区

曾於市立大隅中学校区

志布志市立宇都中学校区

東串良町立東串良中学校区



この「学習者主体の授業」実現プロジェクトの目的の一つである「子供の姿をもとに語り合う研修」は、互いの「観（指導観・子供観など）」を交流しながら授業改善や教師の成長につなげていく有効な機会となっています。デボラ・マイヤーの言葉「教えることは聴くことであり、学ぶことは語ることであり」（出典 デボラ・マイヤー著、北田 佳子 訳(2011)「学校を変える力」岩波書店）が示すように、他者の言葉を受け止めて聴き、自分の経験や知識と結び付けて語る（子供の学びを物語る）ことが教師の学びを深め、成長させます。

現在、地区内の多くの学校で校種や教科、学年を超えて、この語り合う研修が広がっています。今後さらに、子供の学びを共に見つめ、授業について語り合う教師が増えることが期待されており、授業が改善されていくことが「魅力ある学校づくり」の中核となり、本地区の最重点課題である「確かな学力の育成」につながるものと確信しています。

## 地区小学校道徳教育研修会

9月10日(水)、南大隅町立神山小学校において、地区小学校道徳教育研修会を開催しました。1年生が「節度・節制」、4年生が「公正・公平・社会正義」について研究授業を行いました。どちらの学年も温かい雰囲気の中で、積極的に意見を交わす児童の姿が見られました。その後の授業研究では、「意見の交流・深化を充実させる手立て」「生活への実践化につなげる手立て」の2つの視点で協議を行いました。「心の弱さ」と「意義・心構え」を対比させて追究させる構造化の工夫等、道徳教育の充実に向けて学びを深めました。



【役割演技を通して登場人物の気持ちを考える場面(1年生の研究授業より)】

## 県ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会

県内子ども会のジュニア・リーダーや高校生クラブ、ボランティアグループ等で活動する中・高校生が一堂に会し、親睦を深めながら互いの資質を高め合う「交流大会」が、8月23日から24日にかけて国立大隅青少年自然の家「おおすみくん家」で開催されました。県内各地区から中高生68人、指導者・引率者64人が参加しました。テーマは「あつまれ 大隅! ~つながる一歩 ひろがる未来~」。このテーマには、大隅の魅力を生かし、仲間と出会い、一歩踏み出すことで新しい自分や未来を切り拓いてほしいという実行委員の願いが込められています。

大会の企画・運営は、大隅地区内のジュニア・リーダー13人による実行委員が主体となり、令和7年3月から計6回の会議を重ね、大隅地域子連の指導者や鹿屋市ユース・リーダークラブ麗(うらら)の支援を受けながら準備を進めてきました。

大会では、危険を予測し安全に行動する力を学ぶ「KYT(危険予知トレーニング)研修」、仲間と支え合いながら自然の中を歩む「ナイトハイク」、協力と友情を深める「班別対抗スポーツ大会」を行いました。

参加者の皆さんが、ここで培った知識や経験、そして新たにつながった絆を、それぞれの地域で生かし、更なる活躍を期待しています。



【県ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会の公式記録係より写真提供】

## サービス関係



まだ暑い日が続きますが、暦の上では秋となり、陽が落ちるのが早く感じるようになりました。

昨年度の県内の事故発生件数を見ますと、秋冬は加害事故が多く発生する時期の一つであります。暗くなるのが早く、周囲が見えにくいことも原因の一つと考えられますので、早い時間からのライトの点灯をお願いします。また、場所によっては、外灯がない道路もあります。そのような周囲が見えにくい道路を走行する際は、事故防止のため、アップライトの積極的な活用をお願いします。

運転には危険が伴うので適度な緊張感が必要です。走行する道路に潜む様々な危険を正確に捉え、その場に合った適切な運転(予測運転)に努め、事故0を目指してください。

## 地域が育む「かごしまの教育」県民週間 いきいきと学ぶ子供たちの姿をご覧ください!

### 令和7年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰

- ポスター原画  
最優秀賞 日下 咲(垂水市立新城小学校)  
特選 川越 望央(大崎町立菱田小学校)
- 標語  
最優秀賞 溝上 新(志布志市立伊崎田小学校)  
特選 堀 美咲(鹿屋市立寿北小学校)



みんなしゅんこう  
きらりとかがやく  
わたしの学校

毎年11月1日~7日は「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」となります。当該期間を含む前後約3週間の期間内において、自由参観や学校を開放した多彩な行事が行われます。ぜひ地域の学校の行事等に御参加いただき、子供たちのいきいきと学ぶ姿を御覧ください。

## 地区教育活動実践記録(募集)

実践記録に取り組むことは、日々の教育活動を振り返り、授業の工夫や子供の成長を改めて見つめ直す貴重な機会となります。また、これまで積み重ねてきた取組を、この機会に実践記録としてまとめることで、指導力や資質の向上につながります。ぜひ、多くの皆様の応募をお待ちしています。



【大隅地区教育  
実践記録HP  
掲載作品】

# 全国学力・学習状況調査結果から

## 地区の学力の状況

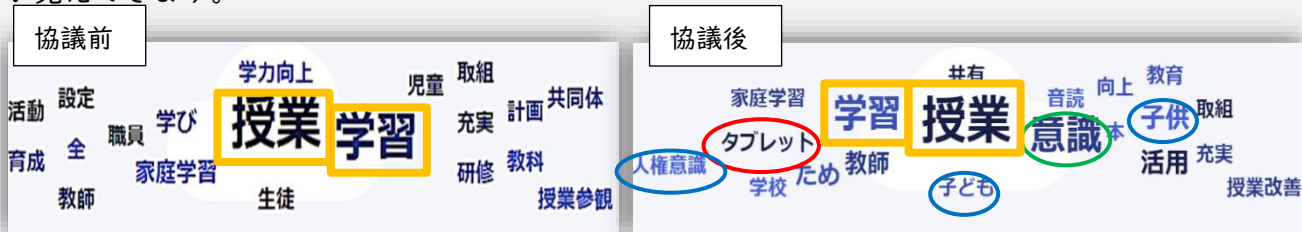
右は、先般公表された令和7年度全国学力・学習状況調査の全国・県の平均正答率と、大隅地区の結果をまとめたものです。調査問題は、今求められている資質・能力を問う内容となっており、結果には子供の学びの様子や、教師の指導の積み重ねが反映されています。よって、一人一人の児童生徒の結果を踏まえ、授業改善に結びつけることが大切となります。

		(%)	
学力調査		小学6年	中学3年
国語	大隅地区	62	49
	鹿児島県（公立）	67	53
	全国（公立）	66.8	54.3
算数	大隅地区	52	40
	鹿児島県（公立）	57	45
	全国（公立）	58	48.3
理科	大隅地区	55	47.4
	鹿児島県（公立）	60	49.3
	全国（公立）	57.1	50.3

中学校理科は、IRTスコア

## 学力向上のヒント～自校で取り組むこと～

このことを受け、地区教頭研修会で、中学校区ごとに「学力向上」をテーマに協議を行いました。下は、協議前と協議後にとったアンケートになります。熱心な協議を通して、下図の口を付けた「授業」「学習」といった共通点と、○を付けた子供を主語にした授業づくりをより大切にしていこうといった変容がありました。この変容箇所に、各学校に生かせる学力向上のヒントが見えてきます。



「学力向上に向けた自校の取組（または、取り組むべきこと）は？（テキストマイニング）」

### ヒント① 「タブレット」に関する意見

- ・「調べたり、動画を見たりという段階から、考えや情報を共有（他者参照）する、そして、まとめといった段階まで高める必要がある。」
- ・「AIドリル等を活用し、子供が自分の弱点を把握できる仕組みづくりが必要。」
- ・「『学習者主体の授業』を目指し、授業にどう活用していくかを再検討する必要がある。」

	地区	県	全国
5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。 ※ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）と答えた児童生徒	35.6	35.4	24.5
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って <u>情報を整理する（図・表・グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）</u> ことができますか。	23	24.2	26.9

大隅地区のICT機器の活用率は高く、地区の強みと言えます。ICT等で学びをまとめる活動への肯定的な回答が高い学校ほど、正答率が高い傾向があることから、自校の活用率・活用段階はどうかを把握し、授業改善に生かすことが大切です。

### ヒント② 「子供・人権意識」に関する意見

- ・「『子供の本音』をもとに授業改善が必要。」  
→質問調査の非認知能力への着目・有効活用
  - ・「子供の主体性を引き出し、自己選択・自己決定させながら学びに寄り添う授業にしていく必要がある。」→子供を主語にした授業づくり
  - ・「目指す子供像を設定することや、校内研修と授業改善をリンクさせることが大切だ。」
- また、地区では、安心して学べる風土がある学校ほど、正答率が高い傾向にあることから、人権意識の視点等による学校づくり・学級づくりが大切となります。

### ヒント③ 「意識」に関する意見

- ・「学力向上には、全職員が当事者意識をもって取り組む必要がある。」
- ・「教師の意識改善に加え、子供も学習の目的や効果を意識していく必要がある。」

同じ取組をしても、成果が出る学校と出ない学校があるのはどうしてでしょうか。先生方が、「全国学力・学習状況調査」の結果や「魅力ある学校づくり」のアンケート結果等から授業改善に取り組む中で、子供の学びの姿を見つめて「何をするか」、目指す子供像や授業像に基づき「どのようにするか（仕方・徹底）」により、成果は違ってきます。自校の取組は、成果につながる取組ですか？